

科目名称:介護実習 I					
担当者名:新口 春美、三輪 早苗、秋山 陽子、伊藤 友香					
科目群(区分)	開講予定時期	授業形態	必修・選択	単位数	卒業認定・学位授与の方針との関連
専門展開	2年前期	実習	選択	2	社会福祉学科(3)(4)
アクティブ・ラーニング実施の有無	実施有り		ナンバリング		14204284
<p>授業概要:10日間の実習。介護を実践する対象や、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術の実際を体験します。また対象者との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を実践的に学びます。実習の前半はコミュニケーションを主な実習内容とし、後半は、生活支援技術の体験から個々の利用者に応じた生活支援のエビデンスについて学びます。また、介護福祉士に求められる役割と機能の実際を学ぶとともに専門職としての態度を養います。</p>					
<p>到達目標:1. 利用者の生活を支える地域・施設の機能と役割が理解できる。 2. コミュニケーションを図り、利用者を理解できる。 3. 基本的な生活支援技術の体験を通し、生活支援の必要性が理解できる。 4. 介護福祉を学ぶ学修者としての基本的な態度を身につける。</p>					
授業計画			準備学習とその所要時間(分)		
<p>以下の内容について学修者が毎日の学習目標を設定し、実習指導者の指導のもと実習を進める。 実習指導者との毎日の振り返りや教員の指導などを通し、介護について学習を深め、発展させる。</p> <p>① 地域における生活支援の実践 ・基本的な生活支援技術の見学、実施 ・生活支援技術の必要性の理解 ・施設および地域で生活する利用者の住まいや生活の理解</p> <p>② 個別ケアの実践や利用者理解のための利用者とのコミュニケーション</p> <p>③ 利用者の心身の低下による生活の不自由さ・不便さの理解</p> <p>④ 施設・事業所における介護福祉士の役割、</p>			<p>実習中は、事前学習ノートや参考書を活用しながら、体験したことや学びを確認し、翌日の実習計画に活かす。(毎日 60 分)</p>		
履修に必要な予備知識や技能:介護総合演習 I を履修し、実習の準備を整えて臨みます。施設の役割、機能、種別、利用者の生活背景などについて学習します					
課題に対するフィードバック:終了後、授業内で必要な項目について振り返りを行います。					
評価方法・基準:実習目標の達成度、記録、実習態度など総合的に評価します。実習 I 評価表を使います。					
教科書:最新・最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習(中央法規出版) 介護実習の手引き(授業内で配布)、そのほかに関連する既習科目のテキスト					
備考:この科目は、介護福祉士養成課程に必要な科目のためシラバスの変更はできません。					
実務経験の内容・期間:介護福祉士(新口春美 5年2か月、秋山陽子 5年、伊藤友香 6年)、看護師(三輪早苗 8年)					